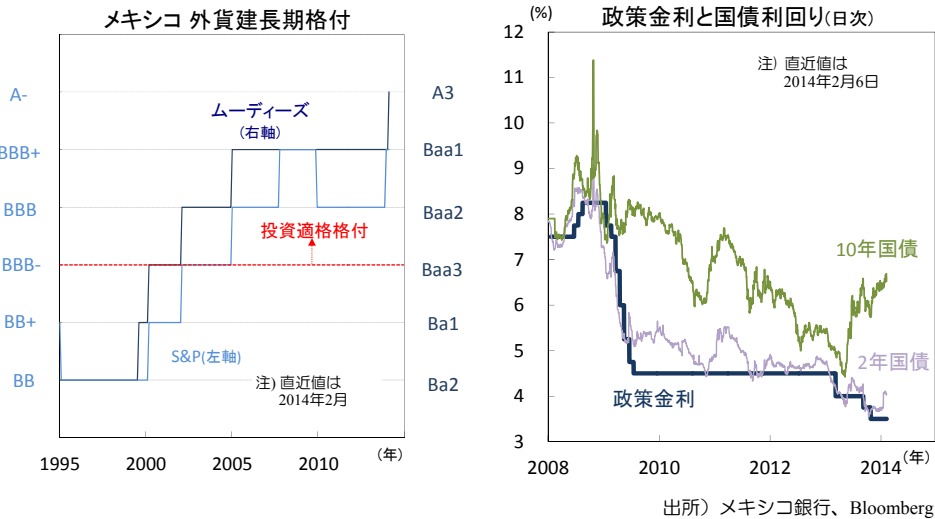


Focus **メキシコ：経済構造改革の進展を受けてムーディーズが格上げ**

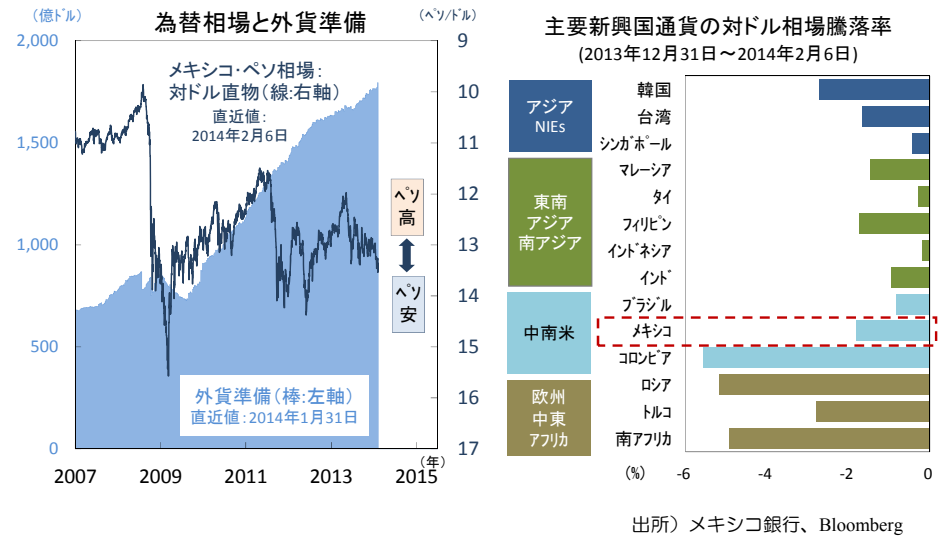
【図1】ムーディーズより史上初の外貨建てA格付を取得(左)



2月5日、格付大手ムーディーズはメキシコの長期格付(外貨/本国通貨)をBaa1からA3に引上げ(図1左)、見通しを安定的に。格付大手による外貨建てのA格付は史上初です。

同社は、格上げの理由として、(1)包括的な経済構造改革に見られる政治的な意志の強さ、(2)同改革から期待される潜在成長力の上昇、(3)同改革によって生じる財政余力の向上、(4)上記の改善に伴って他のA格付国と同水準まで高まった信用力などを挙げました。2012年半ばの議会総選挙と大統領選挙を経て誕生した現政権は、直後より幅広い分野の経済課題に取り組み、労働市場、教育、通信、財政、エネルギーなどの改革を実施。ムーディーズは、過去20年に渡って歴代3政権が取組んできた経済構造改革が今回一気に進展したことを高く評価、一連の改革による信用力の改善は、1994年の北米自由貿易協定(NAFTA)への加盟にも匹敵すると絶賛しました。同社は、石油公社に独占されたエネルギー部門や大手民間企業の準独占状態であった通信部門が自由化されたことに伴って、投資率と潜在成長力が中期的に押し上げられるだろうと指摘。

【図2】年初からのペソの下落率は、南アやロシア等の通貨より小幅(右)



従来+2-3%であった潜在成長率は+3-4%程度まで上昇するとの試算を示しました。財政改革に関しては、基礎的経常歳出の上限が財政余力の向上や歳出構造の改善につながると指摘、新設の石油基金によって財政上の緩衝材が増すことも評価されました。

昨年12月には、格付大手S&Pも経済構造改革の進展を理由に同国の格付(外貨/本国通貨)をBBB/A-からBBB+/Aに格上げしており(図1左)、市場は同国の信用力の改善を広く認知。中期的な成長力の低下と財政の悪化を理由に昨年6月にS&Pに格付見通しをネガティブとされたブラジルとは大きく異なります。同国は低いコア物価などの下で、政策金利を昨年9-10月に2回に渡り引下げて景気を支えており(図1右)、昨年7-8月や今年初めの通貨急落に際して輸入インフレの抑制や通貨防衛のために利上げを余儀なくされたブラジル、インド、インドネシアなどとは対照的です。流動性の高さゆえ、新興国通貨代表としてヘッジ売りの対象になりやすいメキシコ・ペソは年初よりやや軟調なものの(図2)、中期的な相場上昇の余地は大きいと考えられます。(入村)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はいくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問投資情報部の見解です。また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。